

【事務局】

ただ今より、令和6年度 第9回周南市文化・スポーツ活動推進協議会を開催いたします。本日の司会を務めさせていただきます、周南市教育委員会 学校教育課 野坂と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の協議会は、これまで同様に、公開としておりますので、委員の皆様のご所属やお名前も公開されますこと、また、傍聴の希望があれば傍聴を認めることをご了承ください。議事録につきましては、規定により公開することとなっております。発言者の氏名は、伏せた状態で公開しますので、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただけたらと思います。議事録は事務局にて作成し、市ホームページで公開いたします。

それでははじめに、委員の方の変更についてお知らせします。出席者一覧表をご覧ください。株式会社レノファ山口のダイレクター 高橋理文様から、代表取締役 渡部博文様に新しく委員としてご出席いただきます。また、徳山工業高等専門学校から学生主事 張間貴史様から、学生主事 倉増泰弘様に新しく委員としてご出席いただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、要項の1ページをお開きください。本日の流れをお示ししております。

本日の内容は、主に専門部会からの報告、意見交換としております。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、議事に移ります。ここからの進行は、座長 周南市教育委員会学校教育課 課長 稲垣宏美が行います。

【座長】

改めまして、皆様こんにちは。今紹介を受けました周南市教育委員会学校教育課 課長の稲垣宏美と申します。本日、ここからの進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速意見交換に入らせていただきます。昨年9月に実施しました推進協議会において、3つの専門部会の設置について事務局より提案させていただきました。確認させていただきますが、周南市地域クラブに関することについて協議する第1部会、公共施設の活用に関することについて協議する第2部会、そして「しゅうなんコミュニティ・クラブ」に関することについて協議する第3部会、この3つの部会を設置することになっていきます。

それでは、第8回推進協議会以降の進捗状況について、本日は専門部会の部会長または事務局よりご報告をいただき、その後に意見交換を行いたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。なお、専門部会の具体的な内容については、協議進行中のため公開できない事項もあることをご了承ください。

後ほど部会ごとに質疑応答や意見交換の時間を取りますが、それぞれのお立場から、今後の専門部会での協議の参考となるようなご意見やご質問をいただければと思っていますので、よろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、第1部会の方から報告をお願いいたします。

【第1部会部長】

第1部会長を務めております。よろしくお願いいいたします。第1部会では、市のスポーツ協会および市の文化振興会館からそれぞれ報告を受け、意見交換を行います。まず、スポーツ協会からの報告をお願いいいたします。

【スポーツ協会】

スポーツ協会です。説明をさせていただきます。

まず、お手元に配布されております「中学生受け入れ団体の会場マップ」からご説明させていただきます。現在、スポーツ協会のホームページに、中学生受け入れ可能な団体を「社会体育部」として掲載しております。本日配布しております別紙で団体の一覧をお示ししておりますが、その団体の練習場所を地図に落とし込んだものとなります。これから分かることとして、活動場所のほとんどが小学校またはスポーツ施設であり、意外と周南市全域に広がっているということと、その中でも新南陽地区が多いなという印象があります。今後もどんどん印が多くなるように、関係者の皆様のお知恵を拝借してまいりながら、尽力してまいります。なお、この団体一覧は、あくまでも今までのヒアリングにおいて、「中学生を受け入れてもいいよ」とお答えいただいているもので、受け入れの形はさまざまな団体の集まりです。現時点では「周南市地域クラブ」とは呼びません。そのように呼びませんが、この後、文化振興財団様より登録ポータルサイトのご説明があるかと思いますが、そのポータルサイトにぜひ「地域クラブ」として登録して活動していただけるよう働きかけをしてまいります。

今出ました「地域クラブ」ですが、現在、専門部会で登録するメリットについて協議していただいております。その内容ですが、こちらは聞き取りを行った団体様から、特に要望が多かったものを反映しております。こちらについての資料はございませんが、いくつか紹介させていただくと、全国大会などに出場する際の渡航費や宿泊費、指導者資格取得にかかる費用、団体立ち上げなどにかかるイニシャルコストへの補助、団体指導者が訴えられた際の損害賠償への対応などを協議していただいておりますが、各団体の登録を促進していくための1つの手段として、何卒、予算の獲得やバックアップ体制の構築など、実現いただけるよう前向きに進めていただきたいと思います。切に願います。

次に、別紙A4縦版の「地域クラブ登録の流れ」と書いておりますが、流れについてはご覧の通りでございます。センターの方で発信と集約、認定をするまでを行うシステムで考えております。こちらは、各種書類が整い次第、12月初旬を目標に関連団体へ関係書類を送付する予定でございます。

次に、ホッチキス止めの両面刷りの2枚もので、「周南市地域クラブ団体登録申請」ですが、こちらは、先ほども申しましたが、この後の文化振興財団様からご説明がある登録ポータルサイトの中の申請フォームとなります。お示ししておりますものは、スポーツ部門が考える項目を盛り込んだ申請書となります。ご覧いただき、ご意見等ございましたらよろしくお願いいいたします。

次に、こちら資料はございませんが、センターの名称変更についてですが、現在当協

会は仮称スポーツ活動推進センターの名称で活動しておりますが、令和7年4月1日よりこの仮称がとれた状態の「スポーツ活動サポートセンター」として運用してまいりますので、ご周知いただけますと幸いです。

最後ですが、少し話題が変わるのですが、当協会にスポーツ医科学委員会というものがございまして、その委員長に香田整形外科の香田先生がいらっしゃいます。その方が理事会の中で発言された内容なのですが、今までは、部活動の時間帯の中での怪我などは学校から診療時間内に連絡があり、少し遅くなったとしても対応できていた。ですが、子どもたちの活動が地域へと移行していくと活動時間帯が遅くなることが予想され、診療時間内に診察ができない可能性がある。そうなると考えられることが、救急夜間診療所や救急外来に出向くしかないので、これからはそちらに中学生などの患者さんが増える可能性があることから、医師会や拠点となる徳山中央病院に事前に伝えておく必要があるのではないかと、当協会の理事会の中で発言がございましたので、紹介させていただきました。以上です。

【文化振興財団】

周南市文化振興財団の舛本と申します。はじめに、センターの名称についてですが、文化の分野を担うセンターといたしまして、「かるちゃあサポートセンター」と冠する予定です。以後はセンターと呼称させていただきます。

報告事項として4点あります。

まず1点目、センターへの団体登録についてです。お手元のパワーポイントの資料をご覧くださいと思います。1ページ目に団体登録とは、以下の条件を満たす団体・個人が「かるちゃあサポートセンター」へ情報を登録することを指します。団体登録条件は、スポーツ協会様と文化で共通の6項目が載っておりますが、直前に変更があり、5項目となりました。読み上げさせていただきます。スポーツ・文化共通条件、①周南市に活動拠点を持つ文化芸術・スポーツ団体又は個人であること、②誰でも参加できる団体又は個人であること。こちらの2番目が削除となりました。訂正をお願いいたします。③政治活動、宗教活動、その他文化・芸術・スポーツ以外を目的とした団体又は個人でないこと、④公序良俗に反する及び暴力団との関係のある団体又は個人でないこと、⑤周南市文化振興財団・周南市スポーツ協会の事業運営に可能な限り協力し、財団・協会の名誉の毀損や信用失墜行為を行わないこと、⑥団体の代表又は個人が18歳以上であること、です。

文化個別要件としては、未成年を受け入れる際は、保護者との緊急時の連絡体制の整備等、安全確保に留意すること、学校部活動の在り方に関する方針【改訂版】(令和5年5月、周南市教育委員会発行)に留意すること、です。

以上の項目をすべて満たす団体または個人が、かるちゃあサポートセンターへの申請書の提出・受理をもって、初めてセンター登録団体として認可され、通知書がお手元に届いて以降は中学生等に団体登録情報の提供が可能となります。

その他メリットについては、現在も検討中です。

団体登録は12月20日から開始し、周南市文化会館で申請書の提出、またはセンターホ

ホームページの登録フォームからネットで申請の2種類の方法があります。

これまでにワークショップを4回実施し、終了後にアンケートをとった結果、約30団体が登録見込みです。登録情報の発信方法については、受理した団体登録情報をセンターのホームページに掲載し、子どもたちが各自所持するタブレットへの情報発信、年4回程度広報誌発行等を予定しています。

2点目は、センターのホームページについてです。現在、スポーツ協会様と共同運用するセンターのホームページの制作を進めています。ホームページについては、登録団体の一覧を掲載し、小中学生や保護者等はこちらの一覧から自身が興味ある登録団体を選び、記載の連絡先へご自身で申込みや問い合わせを直接行ってもらう流れとなります。ホームページは随時更新し、教室の情報やセンター主催教室のお知らせなどを掲載する予定です。ホームページの情報更新や掲載依頼は「かるちゃあサポートセンター」にて承ります。

お手元にありますカラー付きの資料が、ポータルサイトの現在の状況です。細長く載っておりますのがスマホ用のサイトのデザインです。団体登録がまだ開始されてないので詳細はとれておりませんが、このような雰囲気ではホームページが作成される予定です。その裏面には、ホームページ・ネットで検索した場合の見え方となります。こちらのページからお子さんや保護者の方は検索していただいて、ご自身で申し込んでいただくようになります。

続きまして3点目は、各実証事業の実施状況と今後の予定についてです。今年2月に実施した556団体へのアンケート結果で、現在中学生を受け入れている、または団体登録を検討している、説明会を希望している等回答の149団体を対象にワークショップを4回に渡って行い、延べ46団体59名が参加されました。忌憚のないご意見をいただき、皆さんが疑問に思われていることをその場で回答し、意見交換をさせていただきました。終了後行ったアンケート結果では、32団体が登録を希望、11団体が登録を検討したいとの回答を得ました。

同時に、中学生等を対象とした各種実証事業も行っており、吹奏楽部に所属の中学生を対象とした広島交響楽団による音楽クリニック、広島交響楽団のチェロ奏者をお招きしたクラシック鑑賞入門講座、市内の中学生を対象とした劇団四季を鑑賞する芸術鑑賞会、周南市美術博物館の谷川俊太郎展を鑑賞する美術鑑賞講座を開催いたしました。今後は沼城小学校で行う木管五重奏コンサート、美術鑑賞会、ギャラリートーク、2月にはアンケートで希望の多かった料理教室を予定しています。

4点目は、シンポジウムについてです。資料は最後のページとなります。開催日は令和7年2月23日を予定しており、テーマは、仮称ですが、『文化のまち周南～地域で育てる子どもたちの未来』、登壇者は各団体の方、また基調講演といたしまして、滋賀県守山市の守山市民ホールの職員の方を予定しております。滋賀県守山市の守山市民ホールでは、小中学生を対象とした吹奏楽団を創設し、運用されています。センターが主催する地域クラブの参考とするため、当事者の方をお招きし、講演していただく予定です。登壇者については、現在交渉中です。お手元にお配りしました資料の「ルシオール ジュニアバンド設立へ」という1枚ものですが、こちらが滋賀県守山市の市民ホールが運営しているジュニ

アバンドの記事となります。ご一読ください。以上が文化振興財団の報告となります。ありがとうございました。

【座長】

スポーツ協会様、文化振興財団様、ありがとうございました。ただ今、それぞれの団体の取組の進捗状況について説明がありました。それでは、今の説明を受けて、進捗状況等についてご質問等がありましたら、どなたからでも構いませんので、ご発言をお願いできればと思います。よろしく申し上げます。

【委員】

P T A連合会です。よろしく申し上げます。会場マップを見させていただいて、現段階だと思うのですが、これは、ほぼほぼ小学校が会場になっています。これは中学校が会場に選ばれない理由が何かあるのかなと思うのと、やはり小学校に偏っているというのは、推測ですけど、スポーツ少年団を指導されている方々が、同じ時間帯の会場というようにはいかないと思うのですが、中学校の部活動も見ますよということだと思います。ですが、小学生と中学生では、スポーツにしたら運動量等、まったく違います。「同時に見ることはできないよ」ということもよく聞くのですが、小学校にこういう風に偏ることで、既存の社会体育団体の活動時間帯と被るような場所の問題がないのでしょうか。その辺りも、この地図で丸がついている所はクリアされているのでしょうか。

【座長】

それでは、スポーツ協会さん、お願いしてもよろしいですか。

【スポーツ協会】

スポーツ協会です。先ほど小学校の場所が多いのではないかというご意見であったかと思うのですが、中学校についてはまだ部活動がある状況ではございますので、そこが中学校の部活動がなくなった後どういう動きになるかというところが、その場になってみないとわからないような状況であります。確かにおっしゃる通り、夜間は地域で活動されているサークルだったりとか、地域のバドミントンだったりとか卓球をされている方が多いと思うので、その辺をいかに調整していくかっていうところが、今後課題になってくるかと思えます。

【座長】

よろしいでしょうか。今回、会場マップを示していただいたので、改めて今の状況がよく分かる情報だったのかなという風に思います。ありがとうございました。このマップでも構いませんし、それ以外に進捗状況等の説明もありましたけれども、何かございましたらご発言よろしくお願ひいたします。

【委員】

小学校長会です。よろしくお願ひします。文化振興財団さんの資料の団体登録条件を見させていただいたのですが、文化個別要件で、なぜ、文化個別要件として別になっているのかなということについて、何か意図があれば教えていただければありがたいです。

【座長】

文化振興財団さんのスライド資料の3ページにある文化個別要件のところについてのご質問です。よろしくお願ひします。

【文化振興財団】

3ページの上側にスポーツ・文化共通項目として5項目をお示ししております。これは、スポーツと文化で共通なのですが、これとは別に、スポーツ協会さんも個別の要件がございます。文化といたしましては、特に、広く団体登録をしていただくためには、ハードルが低い方がいいだろうということで、必要最低限の要件として、連絡体制の確保でありますとか、教育委員会が示している学校部活動の在り方に関する方針というものを一読してくださいということで項目にいれさせていただきました。

【委員】

それでは、スポーツはスポーツのみに別にあるということによろしいでしょうか。分かりました。また詳しく教えていただけたらと思います。以上です。

【座長】

団体登録条件のことについてでした。ありがとうございました。その他、各団体のお取組状況について、何かご質問でもよろしいですし、ご意見、ご提案等でも構いませんけれども、いかがでしょうか。

12月の登録等に向けて、かなり具体的な動きになっています。両団体とも具体的にいろいろと活動されていることが報告から見受けられたかなという風に思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

すみません、説明を聞き逃してしまったのかもしれませんが、文化芸術活動の方の活動場所というのは大体どの辺りなのでしょう。市の中心部に近いところに集中しているのでしょうか。要するに、東から西まで、それから山間部まで、ある程度活動される場所は今のところあるのかということを確認したいのですが、お願ひします。

【座長】

文化活動の方の活動場所、予定される会場について、市内のどの辺りの地域に分布しているのかということ、情報提供いただきたいということでしたけれども、よろしくお願

いします。

【文化振興財団】

市内の活動場所については、多くが中央部ではあるのですが、その中には、須々万であるとか、戸田、夜市の方で活動されている団体もあります。また、もしかしたら、中学生が参加してくれるかどうか分からないけれども、受け入れに参加したいという意味をもたれている方もおられます。

【座長】

北部や西部辺りで活動されている方もおられるということでした。

【委員】

現段階では、活動場所的には、文化会館が多いのでしょうか。

【文化振興財団】

現在は、市民センターで活動されている方が多いです。それぞれの地域で活動されている団体に中学生が参加する形になります。

【座長】

ありがとうございます。マップの方を拝見しても、かなり全域的な広がりがあるのが当初の想定よりはあるのですけれども、まだまだ、そう言っても場所の偏り等があるのかなと思います。活動の広がりみたいなところで、鹿野地区とか熊毛地区には、いろいろなスポーツ施設があると把握しておりますので、その辺りを拠点に活動されている団体さんに中学生の受け入れを検討していただくことも可能性として考えていかないといけないかなという風に思います。それも、この地図を示していただいたことで、話が進みやすくなっているのかなと思います。

【座長】

それではですね。また後になってから、第1部会のことについて戻られても構わないかと思っておりますので、とりあえず、ここまでの説明についての質疑応答については、ここで一旦終わらせていただきます。

ここからは周南公立大学が大学生の育成に取り組まれていると聞いておりますので、その辺りのお話を聞かせていただけたらと思っています。岡井先生、ご説明をお願いしてもよろしいでしょうか。

【周南公立大学】

お時間をいただき、ありがとうございます。周南公立大学です。まずは、本学の学生たちがいつも大変お世話になっております。地域活動に関わらせていただき、ご指導いただ

き、ありがとうございます。今日は、情報共有ということでお時間をいただいているのですが、資料は前に提示していただきますので、前のスライドをご覧ください。

本年度、周南公立大学はスポーツ庁の委託事業に採択されまして、周南コミュニティプロジェクトというものに挑戦させていただいております。大きく事業が3つありまして、1つ目は、中学生年代を対象とする地域スポーツ指導員を養成するための研修会を開くというもの、2つ目が、研修会に参加した学生が地域のスポーツの指導者として、その経験を積むというもの、3つ目は、研修会と経験を積んだ学生たちが、次年度以降も指導員として地域のお役に立てるような、そういった人材バンクをつくる、マッチングをして派遣していけるようなシステムをつくるということにチャレンジしています。現段階として、事業1の研修会が9月16日と28日で終わりまして、中学生年代のコーチングであったり、コミュニケーションであったり、障害予防、初期対応、あるいは現職教員からの講話ということで、2日間行いました。申し込み数は101名で、学生が75名、地域の方、学外の方に26名来ていただきました。現在は事業2に移っておりまして、研修会に参加した学生たちが10種目の競技なのですが、中学生のさまざまなスポーツ活動に関わらせていただいています。関わらせていただく形は大きく2つありまして、1つは、中学校の部活動に行かせていただく形で、指導者のサポートとして学生には関わらせていただきます。2つ目のパターンとして、中学校が土日でグラウンドあるいは体育館を使用していないときに、学生たちが自分たちでつくったプログラムを中学生に届けるといった形です。

今は事業2の部分を進めているのですが、各中学校であったり、同じ中学校内でも部活動であったり、あるいは地域クラブであったりと、どういった形で学生に関わらせていただけるかを検証しているのですが、ニーズは非常に多種多様で、学生たちの方も、どのようなことで自分たちが地域やスポーツに関わっていけるのか、貢献していきたいかということも多種多様であるため、そこを組み立てるのが非常に難しく、ミスマッチが起こると互いにいい形にはならないので、そこをととても丁寧に進めなければいけないと感じているところです。

どのように学生に関わらせていただけるかということも、もちろんこの事業で検証していくのですが、次年度以降、どのような形で持続していくのか、持続していけるのかということ考えたとき、たくさんの課題がありまして、そこを今年度まとめ、報告できるように動いていきたいと思っております。以上になります。

【座長】

ありがとうございます。先ほどの会場の確保とか広がりということも今後の課題ではあるのですが、指導者の確保と言いますが、人材育成ということも、この地域移行においては大きな課題として見えてきている所ではないかと思っております。その課題解決の1つのアイディアとして、今の周南公立大学の取組が進められているのだと思います。この取組は、学生さんの力を借りながら、いろいろな形で指導のサポートにあたっていくという取組だと把握しておりますけれども、この周南公立大学の取組を聞かれて、何かご質問やご提案がありましたら、お願いします。

【委員】

高校校長会です。説明のあった研修会あるいは資格というのは、オフィシャルなものをされているという感じなのではないでしょうか。日本スポーツ協会が関わって、競技団体が指導員資格を取れるというオフィシャルなものなのか、独自につくられている研修会なのかということをお教えいただけたらと思います。

【周南公立大学】

ご質問くださり、ありがとうございます。プログラムをつくるに当たっては、周南市スポーツ協会様と教育委員会様と相談させていただきながら、どのような内容がふさわしいかということ、今回組み立ててプログラムをつくりました。オフィシャルというよりは、なぜ、このような研修会を開いたかと言いますと、学生たちは、すべての学生が指導員を目指していたり、あるいはスポーツの団体に属していたりする訳ではありません。けれども、スポーツをずっと続けてきて、学生たちで、スポーツで自分たちが地域に何かできないかと考えている学生がたくさんいます。現状では、そういった学生が学んで地域に出でいけるシステムが学内にも、周南市にもないです。なので、まずは指導者資格というよりは、学生たちが安心して、あるいは中学生が安全に活動できる、そういったところを目的としています。これが、例えばそういった資格を発行して、周南公立大学オリジナルの資格を発行して、そういった資格を学生たちが取得していくようなシステムにも成長していく可能性はあるとは思いますが、現段階では、最低限の段階の研修会をこれからも継続的に実施していくような流れをつくりたいという趣旨で今年は開催しました。

【座長】

ありがとうございます。大学生の方が対象ということで、コーチング等の基本的なところが内容の中心になるのかなという風に思ってお話を聞いておりました。今のような形で、まさに進行中の事業ですので、いろいろご意見等がありましたら、ご発言いただけたらと思います。いかがでしょうか。

【座長】

中学生が対象と言いますか、中学生にどのように関わるかというところに、いろいろと難しさもありつつ、中学校に直接入っていただきながら、大学生がスキルを経験値として増やしていくことになろうかと思えます。その辺りについて、校長先生方から、大学生が入ってくるということについて、ご意見やご感想、お気づき等がありましたらお願いします。

【委員】

中体連会長です。今、事業の2番の方に移っているということでご説明がありましたが、年齢の近い学生さんが、子どもたちにもお兄さん、お姉さんという立場で指導していただけると、子どもたちもやる気になって頑張れると思います。また、学生さんたちがこれま

で部活動に取り組んできた経験なんかも話していただけると、ありがたいなと思います。周南市は、例えば西部、東部、山間部、たくさん学校はあるのですが、中心部の学校だけでなく、周辺の学校に行きたいと思われている学生さんたちはどの程度おられるのかなと思います。よろしくをお願いします。

【周南公立大学】

ありがとうございます。このプロジェクトの1番の難点は、事業期間がすごく短いということです。9月にスタートして、1月には終わりです。今、研修会を終わって、まず、この研修会にどれ位の学生が、どのような学生が応募してくるのかも分からない状況でスタートしました。まさに実証実験でした。何が言いたいかというと、そういったスタートですので、事業2においては、一体どこに受け入れていただけるのか、そのルートも含めてもの凄く苦慮しておりまして、どういった形が望ましいのかということで、教育委員会から、小中学校の校長会で情報共有をしていただいて、「ぜひに」という学校がありましたら、その学校に関わらせていただくというような方法で進めさせていただきました。しかし、どのような事業なのかが、やはり書面だけでは伝わりにくいですし、目標はすべての中学校としていきますので、まずは、私の方から中学校を訪問させていただき、校長先生にお話を聞いていただいて、どういった形に関わらせていただくのが良いのかを聞いて、すり合わせしながら、すべての中学校を目標にしつつ、先ほどお伝えした事業期間もありつつ、また、本日ご報告させていただくにあたって、まだ訪問できていない中学校もありますし、少なくとも10チームの学生全員を行かさせていただくことを組み立てることができれば、組み立てる段階にはきたのですが、そうすると次は学生のスケジュールと合わないこともでてきて、ニーズをいただいたのに派遣できないといった可能性もこれからは生まれてくるので、今日ここでの情報共有も果たしてどのようにしたら良いのかとか悩みながら報告しております。ぜひ、その辺りも中学校の先生方にアドバイスをいただければと思います。

例えば、現状としてこのような可能性が1月にはありますよとか、11月、12月に派遣できないと、今年は難しいのかなという風にも考えています。今年の部分と、次年度の可能性の部分については、ぜひ中学校の校長先生方にご意見をいただければと思います。

遠い所にももちろん行きます。そこまでの交通費などもいろいろなことを含めてお金が必要だと考え、この事業を取りに行きました。ただし、そのすり合わせとか、果たしてニーズがあるのかということ把握しきれていないので、悩みながら進めさせていただいておりますので、ぜひアドバイスをいただければと思います。

【委員】

ありがとうございます。学校にアンケートを取られると「ぜひ、うちに」という学校が手を挙げられると思います。連携していければと思いますし、本当はコンスタントにできれば一番良いのではないかと思います。まずは、このような取組があるならば、私は学生さんたちを受け入れていきたいなと思います。ぜひ、よろしくお願ひいたします。

【座長】

ありがとうございます。私の方も、周南公立大学さんのこの実証事業についてご説明はさせていただいたところですが、スポーツ協会さんにしても、文化振興財団さんにしても、いろいろな取組をされておられ、いよいよ登録が始まりますということで、シンポジウムを予定されていたりとか、いろいろな実証事業をされたりとか、あるいはスポーツ活動体験会を開催されたりとか、いろいろな取組を紹介するような場を設定し、情報発信をさせていただいております。皆さんにより知っていただきたい、いろいろな方に関わっていただきたいという働きかけはさせていただいているのですが、なかなかうまく広がらないと言いますか、フィットしない、ニーズにマッチングがうまくいっていないのかも知れませんが、今の周南公立大学さんの取組についても、時期が限定されるということもあって、思うように進まない、活動がうまく始まらないということもあります。いよいよ、今後、地域クラブの登録等も始まりまして、実際に動き始める段階に来ていますが、地域移行についての取組状況と言いますか、広がり状況ということが、今一つ進んでいないような印象もあるわけですが、この辺りのことについて、何かご意見やご質問、お考えがありましたらお話しただけならと思います。今の周南公立大学さんの取組だけでなく、それ以外のことも含めて、活動の広がりとか、体験会の参加者の増加などについて、お知恵がありましたらお願いします。

【委員】

文化協会です。私は事務局長を務めておりまして、確かにここに書いてあるのですが、文化に対しては、我々の団体には17連盟、1200人ぐらいの会員がいます。ここにある取組やロードマップが分かりやすく、我々に「このような取組をしていますよ」というのが、しっかりと伝わっていないというか、私の認識不足なのかもしれませんが、そういうこともあって、我々の会員にどのように伝えていったらいいのか、その部分が私の疑問としてあります。自分としては、今、岐陽中で美術について1つのプロセスとして取り組んではいるのですが、それについては上手くいっているような感じもしています。先生に全部お任せしていて、どのような中身なのかは分からないのですが、1回授業を見に行くと、皆さんそれぞれ自分の好きな絵を描いたり、パソコンを使って動画を作成したり、それぞれの思惑で生徒さんが自由に遊んでいるような感じで、非常にいいなというような思いがしました。

周南公立大学の岡井先生にもお声掛けして、その後、私が最近忙しいものですから連絡が取れてなくて迷惑をお掛けしているのですが、そういう段階で一つ一つの問題があれば埋めていくつもりなのですが、まずは協会の会員に報告して、登録であればこのように登録してくださいとか、そういうロードマップをしっかりと提案していただけたら動きやすいのかなという風に感じました。これでは確かに、この楽団のクリニックとか、クラシック鑑賞とか、美術鑑賞とかという大きなところはあるのですが、それぞれの小さい部分では、これに当てはまらないところは多くあります。お茶にしても習字にしてもそれぞれ違

いますから、その会員にどのように説明して、どのように取り組んでいただくかというところに問題があると思うのですが、そこのところは事務局側もうまく動けていないところがあります。宜しければ、今後そういう小さいところにも目配りしていただいて、我々にも分かりやすく教えていただけたら助かります。以上です。

【座長】

ありがとうございました。これからどんどん中学生を受け入れていただく団体さんが増えていく中では、活動の内容もさまざまですし、受け入れ団体さんの規模もさまざまとなります。さまざまな規模の団体さんが出てくる中で、すべての団体さんにとって、自分のところはこういう風に活動していくという見通しがきちんと確認できるような、そういうロードマップをはじめとした情報の共有の仕方であるとか、そういったところをもう少し分かりやすく丁寧にすることが必要なのではないかというご意見でした。実際にお取り組みをされていて、子どもさんたちの様子を実際に参加して見ていただければ、その良さとか面白さみたいなものが分かってくるということで、子どもさんたちの活動の様子を見ていただく大人の方がどんどん増えてくると、また活動の広がりも見えてくるのかなという風にお話を聞いていて感じました。ありがとうございました。

【委員】

周南公立大学の事業や、スポーツ協会がされておられます体験会の活動という動きを、計画・実施していただいているところですが、結局、それぞれの活動の目的、ゴールがどこにあるのか、それがまず共有されていないのかなと思います。その活動がどのように結びついていくのか、具体的に申しますと、例えば周南公立大学の取組で言えば、このスポーツ庁の事業であるので、補助金の関係で期間が限られている中で実施されていて、研修・派遣・体験という流れをつくり出したところだと思います。でも、この派遣というのが、果たしてこの補助金を使える期間のみではないような気がしています。これは、将来的な周南市地域クラブというものが確立されて動き出して、そこにサポートする形で、今後大学生が派遣されていくところをゴールとするならば、その派遣の手前のシステムをつくりたい、そのシステムづくりで、今回のそのお金を取ってきた事業でまずは実証実験をしてみて、それが上手くいくのであれば、今後それをシステム化して行って、例えば、どこにその活動費を委ねるのかは分かりませんが、企業なのか、行政なのかは分かりませんが、活動費を募って、何とかそのシステムを回して行って、大学生が地域クラブに指導者としてではなくてサポーターとして派遣されるというような流れを組んでいけば、大学生としての地域貢献とか、サポート体制の担保とか、いろいろなメリットが生まれてくるような気がしています。例えば、スポーツ協会の活動にしても、今後、それが登録団体等の紹介の場であったり、募集につながるような活動であったりするならば、現在各地域で行っている活動が、より効果的になるというか、実際の地域クラブの活動につながっていくような気がしています。だから、そういった何のための、どういった目的で、どのようなゴールを描いて、そしてそこにどのように結びついていくのかが、も

う少し分かりやすく市民の方に周知されていくような形を取れば、これらの取組が生きてくるように感じています。もちろん、中学校の方も、ぜひ協力したいと思います。

【座長】

ありがとうございます。実際に、この地域クラブに関する動きを進めていく中で、いろいろな課題が出てきて、それぞれの課題を解決するために、それぞれの立場でいろいろな取組と言いますか、実証的な取組であったりとか、システムづくりであったりとか、そういったことをそれぞれ進めている段階ではありますけれども、これがいよいよ地域クラブのポータルサイトが立ち上がり、そして地域クラブの登録が始まっていくという時期が近づいてくると、現実的なことが見えてくる段階でもあり、それぞれの取組を今一度整理すると言いますか、全体を整理していくこと、そして分かりやすくお示しをしていくことも必要なのではないかというお話であったように思います。

他に、第1部会の活動について、それぞれの団体さんの取組、周南公立大学の取組について、何かご意見等がありますでしょうか。

【委員】

今、言われたことはとても大事なことだと思っていて、実は、今後、周南地域クラブに加入するだろう現小学生たち、あるいはそのご家庭、保護者の方々にとっては、その情報こそが一番欲しい情報だと私は思っています。そして、そこがはっきりしないので、周南市はどうも令和8年度に中学校から部活動はなくなるらしい、地域の活動になるらしい、で止まっていて、すごく心配されておられるのではないのでしょうか。問い合わせが、おそらく小学校にも、PTAにも、市P連にも多いのではないかと思います。その説明をやはり早く広くしていただくことが大切なのではないかというように思います。

【座長】

ありがとうございます。お話しいただきましたように、いよいよ地域移行が現実的に迫ってきているという段階で、やはり当事者として、実際に子どもさんたちが地域移行に直接関わってくるといって保護者の方、もちろん子どもさんたちにも、いろいろな情報が必要になってくる段階にもなっているように思います。そういう意味でも、改めて事務局は、今は整理したものをお示しすることができないかも知れませんが、これから情報を整理し、分かりやすい形で発信をしていくことを進めていくことになるように思います。情報の発信は大変重要であると思いますので、引き続き進めていきたいと思っています。

それでは、ここまでは第1部会の説明に対する質疑応答、それからご意見をいただきました。ここでのご意見を踏まえて、専門部会でさらに協議を進めていけたらと思います。第1部会に関する最後のということで、周南市地域クラブの登録については、以前お示しをしたロードマップの案では、12月ということになっておりましたが、周南市地域クラブの登録の開始時期、それからポータルサイトの開設の時期について確認をさせていただき、第1部会の意見交換を終わりたいと思います。スポーツ協会さん、改めてお願いし

ます。

【スポーツ協会】

登録に関しましては、先ほど申しました通り、12月初旬に関係団体に関連資料をお送りしまして、12月20日の登録開始に間に合わせるように準備しております。

【文化振興財団】

文化の方もスポーツ協会様と同じく、12月20日から団体登録を開始します。

【座長】

ありがとうございます。この第1部会のスケジュールの中の1つ大きな見通しとして、この12月20日が具体的に決まっているところです。そこを目指していくということと、その後にもまた新たな動きが始まるということ、この場で共有させていただけたらと思います。

貴重なご意見等をありがとうございました。いただきましたご意見をもとに、再度専門部会で検討を進めていただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、ここで10分間の休憩を取ります。

(休憩)

【座長】

皆さんお揃いでしょうか。それでは後半の意見交換に移ります。

前半でもたくさんのご意見をいただきましたが、せっかく本日もご出席をいただいておりますので、ぜひ会の中で、一度はご発言をいただけたらと思います。すでにご発言された方も、ぜひ積極的にご発言をお願いいたします。

それでは、第2部会に移ります。第2部会の報告をお願いいたします。

【第2部会部長】

第2部会の部長を務めておりますので、ご報告をさせていただきます。第2部会は、公共施設の活用に関する事を協議しております。先ほどから少し話も出ておりますが、令和8年度の夏ぐらいになろうかと思いますが、市内すべての中学校の部活動が廃止となり、完全に地域移行となった際には、中学校の施設というものが、これまで部活動で活用していた時間に空くこととなります。具体的に申し上げますと、平日の夕方以降あるいは休日に、例えば屋外での活動であればグラウンド、屋内であれば体育館あるいは特別教室棟が、スポーツあるいは文化芸術活動で活用できるのではないかとようなことがありますので、そういった部分も含めて協議を重ねております。また、現在、学校部活動のみで使用してきた物を、各学校でリストアップし、その備品の整備も進めています。これらが、例えば地域クラブとどのように共用できるかといったことについても、今後検討に入ってい

くところであろうと考えます。また、令和8年度に部活動が終了した際に、先ほど学校施設が使えますということを申し上げましたが、これまで中学校には部活動のために設置してきた部室というものがあります。これらが部室としての用途を終了することになりますので、今後は倉庫として使用されるのではないかと思います。この空き倉庫等を、例えば地域クラブの練習道具等の保管場所として使用するというようなことも考えられます。ただ、学校が利活用することもありますので、活用したいと思う地域クラブと学校との相談が必要になってくるのではないかと思います。また、現在、学校以外の公共スポーツ施設につきましては、物品の保管場所として、個別の団体に倉庫設置を許可していないということです。スポーツ協会と連携して、例えば連盟が主体的に設置するのであれば、それに合わせて許可を出しているという状況にあるようです。これらについても、今後もそうした申請に基づいて、協議や許可をするといったことが必要になってくるというように思います。続いて、施設の使用料の問題については、減免措置という方向性で検討しているところです。ただ、こちらについても、もう少し協議をする必要があるということで、今後登録がスタートしますが、登録された周南市地域クラブに関して、どのような形で、どのようなところに減免措置をしていくのかというようにところについても整理が必要です。今後も協議を重ねていきたいと考えております。学校施設の開放については、学校との調整を行いながら、開放が必要な場所から整備を進めていくということが必要です。例えば、先ほど申しましたうちの特別教室棟を、例えば文化芸術活動で開放するという場合においては、現状ではセキュリティシステムの関係で、それを解除して貸し出ことになった場合には、学校の職員が立ち会わないといけないとか、ついておかなければいけないといった課題等がありますので、そういった改修等についても今後検討が必要ですし、条件が整ったところから整備を進めていくというように段階に入ってきているところです。中学校の情報を、現在、教育政策課がまとめてくださっておりますが、今後は、小学校についても検討していくことになろうかと思います。

また、団体にとっては、どこが開放されるのか、どこが活動場所として利用可能なのかというような情報はとても重要な情報となりますし、それに基づいて募集等をかけていくというようにことになろうかと思いますので、それは同時に、子どもたちや保護者の方たちにとっても有益な情報になってくると思います。この辺りを、できるだけ早い段階で発信をしていくべきだということで、今後の整理をしていきたいと考えております。

【座長】

ありがとうございました。第2部会の協議内容について報告をしていただきました。施設面での活用についての内容でございましたが、今の報告を受けまして、ご質問等がありましたらお願いします。

【委員】

お尋ねしたいのですが、よろしいでしょうか。特別教室の使用については、やはり早く申し込んだら、それに対する許可というのはどうなるのでしょうか。皆さんに平等に与え

られるのでしょうか。

【座長】

特別教室の使用申請の許可のおり方というのは、早い者勝ちなのかどうかという、公平性はどうかなのかというお尋ねだったかという風に思いますけれど、その辺りはいかがでしょうか。

【文化振興財団】

現在、担当課の方で、使用可能な特別教室について挙げていただいているところですが、やはりセキュリティの関係で、セキュリティを外せない学校については使用できないということです。市からまだ回答をいただいておりますので、決定した場所はないのですが、セキュリティが独立している学校については使用できるように進めていきたいと考えております。

【事務局】

教育政策課です。よろしくお願いたします。今の特別教室の開放の件ですが、前回の協議会以降、警備会社3社と契約しており、その3社とそれぞれ面談をして、状況を確認しながら進めております。実際には、独立した棟については開放可能であるといことで何校かございます。その中で、現在はそれぞれの中学校に直接お話をし、その意向等を確認しているところです。

【座長】

今のところ、どこの学校のどの場所が切り離して使用できる状況になるのかというところの確認をしておられるという段階だというように思いますので、その場所が確定できた時点で、登録団体の方にその情報が発信されると思います。また、ご指摘、ご質問があったように、どの団体に、どのような形で使用していただくかという調整については、また具体が決まってから進めていくことになるのではないかと考えております。今は、本当に場所を探しているのか、確認をしている段階にあるのかと思います。

他に、この第2部会の施設等の件について、ご質問やご意見等がありましたらお願いします。

【委員】

スポーツ推進委員です。この施設の使用についてですが、時間帯というのは大体決められておられるのでしょうか。

【座長】

施設の利用についての時間帯でございますが、それぞれの施設によって担当部局が違っ

ているかと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】

教育政策課です。平日の学校施設につきましては、前回の協議会でもお話をさせていただきました通り、学校行事等の活動もあるということで、最終的には学校が判断し、それ以降の時間帯で使用するようになるかと考えております。また休日についても、同じような形で、行事等の学校の活動状況によって、学校の方から使用可能な日や時間帯を示していただけるという形になるかと思えます。

【座長】

学校施設以外のスポーツ施設や文化施設については、いかがでしょうか。担当部局からスポーツ施設の利用について、ご説明があればお願いします。

【事務局】

スポーツ振興課です。スポーツ体育施設につきましては、基本、条例通りでございますので、今のところ、特に中学生だからというようなことはありません。

【事務局】

文化振興課です。ひとまず、文化会館、美術博物館で言いますと、施設に開館時間として定められておりますので、文化会館であれば9時から22時、美術博物館であれば17時までという枠で考えております。

【座長】

基本的には、今、ご説明があったような時間帯で想定されているということです。

【委員】

と言うのは、一般ならいいのですが、中学生は何時まで出ていいのですか。中学生の部活としてやるとしても何時までならやっていいとかあるのですか、22時までやっているのですか。

【座長】

実際に動く中学生の時間制限ということですが、中学校長会長、いかがでしょうか。

【委員】

例えば、それを学校として定めている学校もあるかも知れませんが、本校につきましては特に定めておりません。と申しますのが、現在、塾等に通っていて、その時間はまちまちでございます。もちろん、その保護者の監督下でのことになりますので、おそらくこの部活動が地域移行された場合でも、例えば、平日の夕方以降の活動終了時間にどのような

形で子どもたちが参加し、家庭に帰るかについては、受け入れ団体の考え方もあるでしょうし、保護者としての構えもあろうかと思えますので、規制をして「何時以降の活動には参加してはいけません」というようなルールを、本校としては、学校として設けるつもりはございません。

【座長】

これから時間の使い方についても、子どもさんたち自身が考えていくということが求められていくようになるのかなと思いますし、その中で、自分の時間をどういう風に使っていくかを考えることも、地域移行に伴って必要になってくる力なのかなということもお話を聞いてきて感じました。

他にご意見等がありますでしょうか。

【委員】

備品について質問させてください。現在、備品について、学校等の部活動で使っている備品を整理しているということだったのですが、今後の見通しとして、どのような考えで進めていくのかを教えてくださいたいです。と言うのも、活動拠点校に当たる学校の備品はその団体が使うとか、そういったことは考えられるのですが、なかなか活動場所になりえない学校の備品について、今後はどのように取り扱っていくのかという見通しがあれば教えてください。特に、公費で購入した物はある程度流用していけばよいのですが、公費以外で購入した物については、やはり配慮が必要かなと思うのですが、その辺りの今後の見通しを教えてください。

【座長】

ご意見、ありがとうございます。場所だけでなく、備品の今後の見通しということでございましたが、いかがでしょうか。

【事務局】

学校教育課です。備品の取り扱いについてですが、夏の前に校長を通じて調査をしまして、特に楽器については、部活動がなくなったときに楽器が学校に残るということで、備品登録と言って、市の財産として購入している楽器と、そうではない、例えばその部活動のOBの方が購入して学校に寄付してくださった、そういった楽器等を調査しましたら約200個の楽器が存在しております。この備品の活用方法については、今後については、その学校の財産というところではなく、地域クラブで有効に活用していただくという方向性で協議を進めております。市の財産の部分、備品登録をしている楽器につきましても、市の財産でございますので、それを文化振興財団様等々に譲与という形で活用していただくといった方向で協議を進めているところです。

【座長】

備品については、個別それぞれの状況が違いますので、一つ一つの備品を確認しながら、最終的には使っていただける物は地域クラブの財産として手続きを経て、移行していくという形で活用を考えておられるということです。

それでは、第2部会から第3部会に移ります。第3部会の報告をお願いします。

【第3部会部長】

第3部会の部長を務めております。それでは、第3部会については、事務局よりご説明いたします。事務局、よろしくをお願いします。

【事務局】

生涯学習課です。私から第3部会の報告をさせていただきます。

「仮称しゅうなんコミュニティ・クラブ」実証事業の報告について、途中報告になりますが、皆様と共有させていただければと思います。こちらについては、活動場所にある通り、秋月中学校さんのご協力のもと、そして学校教育課、生涯学習課、そして何よりも周南公立大学 岡井先生のゼミ生の皆様のお力を借りて、この実証事業を進めております。こちらは第8回推進協議会でも示させていただきましたが「しゅうなんコミュニティ・クラブ」、ここからは「コミクラ」というように略させていただきますが、コンセプトは「つどう、つくる、つながる」、「そして中学生が主体となって自分たちのやってみたいを実践する」としております。ですから、今までの部活動のイメージとは少し違うという風にまずはご理解いただき、そして今から実証事業について、映像で皆様に実際の中学生の姿を見ていただきながらご説明させていただきます。お手元に追加資料を配らせていただいておりますが、基本的には動画を流しながらご説明いたしますので、スクリーンをご覧ください。

(活動の様子を視聴)

こちらは第8回推進協議会で説明させていただいた資料ですが、今回、私たちが重点を置いたのはこの部分です。つまり、大学生が仮称ですがクラブアシスタントとなり、本当に中学生が中心となって自分たちの「やってみたい」を企画することができるのか、運営することができるのか、このところを大学生の皆さん、中学生たちと一緒に実証していくところに重きを置きました。

まず、9月11日です。ここにセンターとありますが、今回、センターの代わりに市教委が主にその役目を果たしておりましたが、中学生に「コミクラってこんなものだよ」、そして「ぜひ、やってみよう」というのを、生徒集会で時間をいただいて、大学生が自分たちでプレゼン資料を岡井先生のご指導のもとに作成した資料を使って、中学生の前でプレゼンをしました。

(活動の様子を視聴)

このように、大学生が、中学生に「やってみようよ」という風に、ご覧のような明るい感じで説明してくれました。また、募集の方法も、少し映りが悪いのですが、その二次元コードは市教委が関わったのですが、ゆくゆくはセンターが関わるかも知れないのです

が、チラシは大学生が作成し、募集もしております。

(活動の様子を視聴)

私たちも、一体何人の中学生がここに募集してくれるのだろうか、岡井先生と一緒にドキドキしながら待っておりました。そして、いよいよこの企画になる出会いのところ。資料にも書いてありますが、5名の中学生が参加してくれました。中学3年生も最初は来てくれたのですが、これから受験を控える時期ということもあり、中学3年生の参加はこの1回だけになります。残りは、中学1年生の子どもたちの参加だけということになっております。

そして、最初は、出会いということで、大学生がアイスブレイクというか、打ち解けて話がしやすいようにということで、自己紹介のゲームなどを用意してくれました。それでは、その様子をご覧ください。

(活動の様子を視聴)

教員志望の学生さんだっと思ったと思いますが、先生のように、子どもたちに「こうやってやるよ」という風に、指導されている様子が分かったと思います。しかし、やはりまだまだ中学生たちも発言したり、自分たちで活動したりするというのは、第1回目ではまだまだ見えなかったと思いますが、それでも、岡井先生が大学生の皆さんとしっかり打ち合わせをされておられ、大学生はできるだけ中学生たちに委ねようとか、中学生たちの「やってみたい」を引き出すような感じで関わろうとされていました。

この場面は、コミクラのルールを子どもたちと一緒に決めようとしているところです。中学生たちが付箋を書いて、「こういうのが大切だよ」というルールづくりをしているのですが、動画を見られて気づかれた方もおられると思いますが、大学生が中学生に付箋の内容を「君が読んでね」と促しているように、岡井先生のご指導の下、大学生が中学生の活動の場を意図的につくってくれたので、中学生の動きが少しずつ見られるようになっていきます。そして、ここからは少しずつ笑顔も見られ、中学生と大学生の距離が少しずつ近づいているのも伝わるのではないのでしょうか。

そして、こちらも映りが悪いのですが、中学生はどんなことをやってみたいかを付箋を使って書き出し、大判用紙にまとめていきました。これも、もしかしたら、やってみたいことがでないかも知れないと岡井先生や大学生の皆さんと心配していたのですが、その心配を吹き飛ばすくらい、5人の中学生はたくさんの「やってみたい」を付箋に書いてくれました。では、その付箋を書いた後の様子も、ご覧いただけたらと思います。

(活動の様子を視聴)

大学生が中学生の活動を促しています。そして、ここのサポートメンバーの学生も促すと、あとは中学生が自分たちでグループ分けをし、さらに「これをやってみたいよね」という会話もこの後展開していったような感じです。

第1回目も楽しそうな場面もあったのですが、それでも、明らかに会を重ねるごとに、中学生たちが発言したりとか、主体的に動こうとしたりする姿が見て取れるのではないのでしょうか。そして、この会の最後には、先ほど「4つに絞ろう」という発言もありましたが、時間がきましたので、「この中から1つに絞って、次にこれをやりたいという風に、プ

レゼンみたいなものをつくれるかな」というような、少しハードルの高い宿題を中学生に出しました。後々、秋月中学校の先生方にお聞きしたのですが、先生方も気づいていない間に中学生は打ち合わせをして、自分たちでプレゼンをつくっていました。それでは、プレゼンを大学生の前で披露している動画をご覧ください。

中学生が自分たちでそうやってプレゼンをつくっていますので、聞きづらかったり、分かりづらかったりするところもあるかと思いますが、本当に自分たちだけで準備しているところを見ていただけたらと思います。

(活動の様子を視聴)

詳しい説明は省きますが、中学生たちがこういった細かなルールまで設定し、プレゼンをつくっていたということが伝わったのではないのでしょうか。先ほどの大学生の歓声の通り、岡井先生や大学生の皆さんには、こういったプレゼンをつくっているというのは一切伝わってなくて、しかも文化祭もありましたので3週間程度活動が空きましたので、中学生が一体どんな感じでプレゼンを持ってくるのかとドキドキしていましたが、見事、中学生はご覧のようなプレゼンを準備していました。先ほど、企画メンバーが1年生だけになったとお伝えしましたが、どうやら同じクラスで、元々仲の良い子たちだったということの後からお聞きしましたが、休み時間等で、「そういえば集まって子どもたちが何か話していたね」というのを担任の先生から伺いました。本当に文化祭シーズンがあつたにも関わらず、このように中学生は自主的にプレゼンを仕上げておりました。

(活動の様子を視聴)

ただ、皆さんもお気づきかと思いますが、学校で隠れて「鬼ごっこ」をする、校舎を使おうと子どもたちは思っておりましたので、それは教頭先生の許可がいるのではないかという話になり、教頭先生のところに子どもたちが交渉というか、話を聞いてもらおうということで打ち合わせてしているところです。

(活動の様子を視聴)

このようなところからも、子どもたちが、自分たちで何とかしようとしていることが伝わるのではないのでしょうか。代表者が教頭先生を呼びに行きました。今の場面でも伝わったとは思いますが、教頭先生に後からお聞きしましたが、日ごろ、子どもたちが教頭先生に「これをやらせてください」というようなことを言いに来ることはないそうです。だからこそ、子どもたちがこのように来てくれたのは本当に嬉しかったと言われていました。子どもたちが学校生活ではなかなか見せない姿を見ることができ、大変喜ばれておられました。

お手元の資料にも載せておりますが、教頭先生に対して、子どもたちはもう一度プレゼンを行い、校舎の中での活動は難しいから、例えばグラウンドや体育館でやってみる方がいいのではないかなというアドバイスをいただき、子どもたちはいただいたアドバイスをもとに、リハーサルのための準備をしましたが、ここもほとんど子どもたちだけで進めています。映像を流しますが、大学生たちが、子どもたちの後ろで、笑顔で見守っているのをご覧ください。

(活動の様子を視聴)

今、この男の子は何をしたかという、グラウンドでリハーサルをしよう、でもグラウンドが今空いているかなというのを確認しています。グラウンドが空いているのが分かったら、では今から外でリハーサルをしようということになりました。そのような場所の確認まで、子どもたちが自分たちで行い、いよいよリハーサルということになりました。ご覧になっていただいているのは、実は2回目のリハーサルの映像です。見慣れない男子2人がいると思いますが、実は1回目のリハーサルをコミクラのいつもの5人と、それから大学生で楽しそうに実施したのですが、ボランティアをしていた中学3年生が近づいてきたので、「一緒にやろうよ」と誘ったら、「いいよ」と言って急遽飛び入りで、この中学3年生の男子2人が参加してくれました。その中学3年生に、コミクラ部員である中学1年生が堂々と説明するのですが、その様子をご覧ください。

(活動の様子を視聴)

岡井先生も協力係のような感じで、子どもたちが指示を出して、リハーサルを進めるという流れになっていました。今少し映ったのですが、他にもボランティアをしている子たちがいまして、走るという参加はしなかったのですが、「頑張れ、頑張れ」といった応援をしたり、このコミクラの活動を温かく見守ってくれたりしていました。

最初は大学生の皆さんが「こういう風にしよう」という授業のような形で始まったコミクラの活動ですが、岡井先生のご指導のもと、大学生の皆さんが中学生に委ね、または中学生が困ったときにサポートをする、そして「君たちは何をやりたいの」というのを大切に進めていったことで、中学1年生が堂々と自分たちで活動を仕組むといった形となりました。まだ途中と言いましのが、これは11月6日に行ったりリハーサルであって、本番は2日後の11月20日で、いよいよ全校生徒に呼びかけ、本番をすることになっています。

実はこの20日の本番についても、私たち事務局が、アンケートフォームなどを通じて全校生徒に情報を発信しようかと考えていました。しかし、秋月中学校に連絡すると、教頭先生から、子どもたちが自分たちでポスターをつくり、自分たちの家で印刷も行い、そして、教頭先生にポスターを教室に掲示してもよいかと許可を取りに行ったことを教えていただきました。子どもたちは自分たちで募集まで進めていました。自分たちでポスターを作成し、印刷し、そして各教室に掲示し、「一緒にやろうよ」と呼びかけ、20日にいよいよ本番を迎えることとなっています。

20日がどうなるのか、私たちにもまだ分かりませんが、ボランティアをしていた中学3年生の男子が飛び入り参加をしたように、きっと多くの生徒さんが参加をしてくれるのではないかと期待しています。また、大学生の皆さんも「自分たちも参加するからね」という風に言ってくれています。また、先ほどのリハーサルの場面では、実は学校運営協議会の地域の方も見守ってくださっていました。学校から「秋月中学校でこのようなコミクラの活動に取り組んでいますよ」という情報を発信していただき、興味のある地域の方が来校され、本当に暖かく見守ってくださっていました。このような形で、20日に本番を迎えようとしています。

また、本番を終えれば、子どもたちはもちろん、大学生の皆さんとも振り返りをしようと考えていますが、現段階ではありますが、コミクラの企画に参加してくれたメンバーに

アンケートを実施していますので結果を紹介します。

まず、「コミクラの活動に参加しようと思った理由」ですが、「大学生と一緒に活動してみたかった」が4人中2人です。あとは「友だちに誘われた」、「説明会で興味を持った」というようになっています。「コミクラの活動は楽しいですか」という質問には、やはり肯定的な回答が多かったです。そして「コミクラの活動を通してじぶんの成長を感じたこと」については、「発言力が上がった」「話し合いの能力が上がった」「整理する力が上がった」とありました。「友だちはどうでしたか」についても同様の力が上がったと答えています。

このように、コミクラは子どもたちの「やってみたい」を、岡井先生のご指導の下、大学生が大切に取り組んでくれましたので、子どもたちにこのような成長があり、そして笑顔がありました。生き生きとした子どもたちの活動につながっているものと思っています。途中段階の活動ではありますが、以上で報告を終わります。

【座長】

第3部会の取組、コミュニティ・クラブの実証事業ということですが、子どもさんたちの活動の様子については只今動画で見せていただいたのですが、折角ですので、大学生をご指導いただきました岡井先生からもお話をいただけたらと思います。

【周南公立大学】

ご報告ありがとうございました。専門部会では、学生が出席させていただいて、学生がどういうことを思い、経験したかについてもお伝えさせていただきました。本日、関わったすべての学生が授業のため、この場に参加できないことが非常に残念です。まずは、このような活動に学生を参加させていただき、ありがとうございました。

具体的には4年生が4名で、3年生が3名関わらせていただきました。準備は3月から始まりまして、約半年間、教育委員会様のサポートと言いますか、学生にご指導いただきながら活動を組み立て、実際は9月スタートということになります。まず、このコミクラという場所をつくるにあたって徹底したことは、中学生が完全に主体であり、中学生がやりたいことを実現できるようにサポートすることです。それで一人ひとりが、何ができるかということを考えながら、このプログラムを組み立てていったわけなのですが、その中学生の「やってみたい」を引き出すということが、この実証事業の一番重要視したところでした。それで、結果的には非常に上手くいったと言いますか、動画で改めて見ますと、私も生徒集会からすべてに関わらせていただいて、一言で表現すると、コミクラの活動に私自身も本当に感動しました。その理由は2つあって、1つ目は、課題活動として、中学生が自分たちの「やってみたい」ことにチャレンジしていくという、その原点のようなものを体感することができたというか、感じることもできたということ、2つ目は、その中学生が主役の場所として、コミクラの無限大の可能性を感じたことです。今回は、どのような中学生が集まるのか、どのような活動が出てくるのか分からない中で、大きな不安もあったのですが、その中の1つの事例に過ぎないとは思いますが、その中においても、1つの活動を中学生と大学生がつくり上げていく成功事例になったのではないかと思います。

す。全13中学校でどのように展開していくのか、大学生がどのように関わらせていただくのか、その部分の課題はたくさんあると思うのですが、今回の内容としては上手くいきました、可能性が有りますということをご報告させていただければと思います。全4回シリーズになっておまして、1回目は「出会い」、2回目は「つくる」、こういった目標で、こういった活動をつくっていくのか、3回目は「準備」で、今度本番を迎えようとしていて、最後に「さらに」という回を用意しておまして、全体で活動を振り返りながら、次の活動を中学生が組み立てていくという流れになっています。

【座長】

ありがとうございました。このコミクラの活動については、今までは紙面上の話だけで展開してきたようなところもあって、実際に子どもさんたちが取り組んでみて、その様子を動画や写真で共有できたことで、かなり具体的なイメージをもていただけたのではないかと思いますし、関わってくださった方々の実際の感想からも様子を知ることができたのではないかと思います。そういった具体的なイメージができたところを踏まえまして、お気づきやご質問、ご感想があれば、どなたからでも構いませんので、いただけたらと思います。

【委員】

素晴らしい活動だなと思いました。この「つどう」「つながる」という言葉を聞いていて、感想になるのですけれども、「つながる」というところは、他の人たち、他人とつながるということも大事ですし、自分自身と向き合うという意味で「つながる」でいくと、コーチングになるのですが、大学生たちが中学生の考えを引き出そうとしている姿は、すごく重要だなと思いました。先ほど前半でご説明のあった大学生の研修会でもコーチングについて取り入れられているかと思うのですが、もしかすると、そこにも紐づくのではないかと思います。文化やスポーツでもコーチングは重要になると思いますし、そういった部分で、広くこのコーチングをベースとして取り組んでいただくことによって、岡井先生が取り組まれている活動の中でも、コーチングは重要な軸になるのではないかと思います。

【座長】

ありがとうございました。中学生を主体とする活動でありながら、大学生自身にも大きな学びがあったのではないかというお気づきであったように思います。

【周南公立大学】

貴重なご意見をありがとうございます。このコミクラの難しさの1つとして、ここに関わっている学生たちには、自分の得意なスポーツがあり、スポーツを指導するという事は容易にイメージできますが、コミクラで中学生たちの意見を引き出すとなったときに、経験もなければ、どのような関りをすれば良いのだろうということと、教える立場ではないことへの理解を促す、その準備がすごく難しく、どうしても人前に立ったら、何かしな

ければとってしまうのです。それは学生も同じです。何ができるかと言うと、コミクラにいる中学生以外の関係者は、その場に行くとか何か言いたくなってしまうのですが、そうではなくて導くということ、そこを勘違いしないように呪文のように学生にも言い続けてきたのですが、それが一番できないのがきっと私でした。だから、コーチング、導くというところで、例えばスポーツ指導員も同じなのですが、ちょっと違う関りになる、チャンネルを切り替えるとか、例えば、バスケットを教えてほしいという依頼が来たら、そのとき初めて教える立場になるというように、その辺りがすごく難しく、まずは立場を理解すること、一番苦手なのは教員なのかなと思いました。少なくとも私は苦手で、いない方が良いでしょうとは思ったのですが、結構学生たちが活動しているので、参加していました。補足でした。

【座長】

ありがとうございます。教員は苦手ですね、私も教員で苦手です。他に、この第3部会の取組、コミクラ活動について、今後いろいろな展開が考えられるかなと思いますけれども、何かご意見やお気づきがありましたら、お願いします。

【委員】

今回の実証事業を否定するわけではないのですが、これはあくまでも秋月中学校コミュニティ・クラブです。しゅうなんコミュニティ・クラブは、これから始まります。学校の枠を超えて、さらに教室等もこのように使わせていただいて、数ヶ月にわたって企画の段階からみんなで話し合いをすることが、私はできると思っているのですが、いろいろな学校の生徒が集まって、こういった事業ができれば非常に良いとは思いますが、そういった学校の枠を超えて事業をされる予定はありますか。

【座長】

今回は1つの学校の中だけで取り組まれた事業ですが、学校の枠を超えての今後の展開を考えておられるかということですが、生涯学習課、お願いします。

【事務局】

来年度の実証事業についても現在話し合いを進めていますが、コミクラについては、基本13の中学校区に設置する予定です。ですから、まずは来年度も、秋月及び秋月とは違った規模の学校で、実証事業を展開する予定です。今、お話をいただきましたような学校の枠を超えた取組みについては、ゆくゆくはそのような取組になったら良いということで課内では話題に出ています。今回の実証事業も、例えば企画メンバーが1年生だけだから進んだのかも知れませんが、異学年だったらどのようになるのかについては、専門部会でもご意見をいただいたところです。本当にまだまだ確かめなければならないことは多いので、学校の枠を超えるということについては、いずれ実現できれば良いなと考えています。まずは一步一步実証事業を進めていることについて、ご理解をいただければと思います。

ます。

【座長】

ありがとうございます。中学校の枠を超えて、いろいろなことで、子どもさんたちがつながっていくということが、将来的に見えてくると、またいろいろな活動の広がりも出てくるように個人的には感じているところです。

今のような、今後このようになったら良いというご意見でも結構ですが、他にはありませんでしょうか。

【委員】

実際に活動している様子を見せていただいて本当に良かったと思うのですが、コミュニティ・クラブはいろいろなところで紹介をされていますが、やはり具体的にイメージできる方は大変少ないです。子どもたちも多分そうだと感じています。そういう意味では、このような実践を蓄積して、イメージビデオというか、そのようなものを作成して広報していくと、より周知しやすいのかなということは思いました。今の映像を見ていると、団体と言うか、クラブに所属するのに少し抵抗のある子どもさんとか、そういったお子さんについても、「自分でやってみたいな」と思えるきっかけになるのではないかなと思いました。とても良い取組だと思えます。

【座長】

ありがとうございます。具体的なイメージを共有するような広報活動を進めてほしいというご意見であったと思います。他にご意見はありますか。

コミクラの活動は、いろいろなテーマでもできそうな気がしますし、学校の枠を超えてということも考えられますし、地域それぞれの特色を踏まえながらの活動ということも進んでいくと面白いのかなと思いました。

【委員】

このコミクラの活動について、第3部会の中で確認したかったことがあったのですが、それは、このコミクラを自主的な活動にするのか、主体的な活動にするのかということなのですが、自主と主体の違いはどうなっているのかということにすごく興味がありまして、これについて聞いてみたいと思っていました。活動の様子をご覧になっていただければ分かるように、自主的な活動を超えた主体的な活動だと感じています。私が考える自主的な活動というのは、大人が先に枠組みを決めた中で、子どもたちに「その中で考えてみなさい」と言うのが自主的な捉えで、主体と言うのは、そもそも枠組みがなく、このコンセプトになるように、「何がしたいの」「どうしたいの」からスタートするものだと思います。私自身、長年教員をしており、学校という縛りの中で、自主的な活動は何とか促せるのですが、主体的な活動となるとなかなか難しいと考えています。例えば、掃除というものがあって、学校ではクラス毎に、班毎に「あなたは玄関の掃除をみなさい。その中でどうした

ら良いかを考えなさい」というような自主的な活動はさせられるのですが、その枠組みを決めずに、この学校全体をきれいにするためにはどのようにしたら良いかを考えさせるというのはなかなかできません。本当はそこからスタートして、自分たちが何をしたら良いのかを考えて実践させたいと思っています。一方で、このコミクラは枠を決めずに、これをやりましょうと決めずに、「そもそも自分たちは何がしたいのか」から始める活動ですから、ぜひ、その主体性を一番の売りにしていただきたいと思います。そうなってくると、おそらく地域ごとに特色が生まれて、その地域ならではの文化も育つのではないかとこの可能性を感じていますので、ぜひぜひ皆様で大きく育てていただければと思っています。

【座長】

ありがとうございます。今後、いろいろな活動を展開していく中で、具体的な活動やテーマはもちろんです。どのように子どもさんたちと「既存の枠組みみたいなものとの関係について、どのように捉えていくのか」というような考え方も吟味しながら、活動を展開していく必要もあろうかというご意見だったかと思います。その辺りについては、いろいろな事例が積み重なることによって見えてくることもあるものと思っていますので、定期的に話題にしていけたらと思います。

他のご意見やご感想はありませんでしょうか。残り時間も少なくなってまいりましたので、まだご発言のない方は、お気づきや感想等がありましたら、ご発言いただけたらと思います。

【周南公立大学】

何度もすみません。重要なことなので、今のところを補足させてください。コミクラがどのような場所で、どういう場所にしていくのかについて、今回は学生がそこに関わらせていただいたのですが、大学の学生もそうだったですし、教育委員会様との打ち合わせもそうですし、専門部会での協議もそうなのですけれども、どこまで枠組みを決めるのかというのは大きなポイントの1つだと思います。専門部会の中でも、例えばこのような意見がでたらどうしよう、まずはメンバーが集まるかどうか分からないのに、そのような議論もありました。コミクラはこうあるべきだとか、それは駄目だろうとか、こんなことができたらいいのではないかとか、おそらくこの協議会でも以前話題になったのではないかと思います。周南公立大学の学生も、ある学生は「岡井先生、どこの場所が使えるのかを最初に言ってあげないと、計画を練ってプレゼンして、実践できなかつたら可哀そうですよ。だから、先に使える用具とか使える場所を教えてあげないといけない。その後でないと、つくれないのではないかと」言いました。でも、別の学生は「それは本来のコミクラが目指すものでも、私たちが目指す役割でもない。まずはどういったことをやってみようのかを引き出すのが自分たちの役割で、枠組みは後からではないか」と言いました。そういった議論の中で、今回の結論としては一切の枠組みは用意せず、枠組みは唯一「何をやるのかを決定すること」だけです。いろいろなことを引き出して、とりあえずできないこ

とも、やりたいことは全部引き出すというのが一番のミッションでした。でてきたものからどう決めるかの視点として、中学生に最初にルールと活動指針を決めさせました。だから、中学生はその指針に基づいて、どういった活動が良いのかを自分たちで選んだわけです。それが唯一の枠組みで、それ以外の枠組みを今回は用意していません。だけど、やはり考えた後に、教頭先生から駄目だと言われたら、中学生は本当にしょんぼりしていました。だから最初に、このようなルートで確認しないと教えてあげていた方が良いでしょうか。一般的に考えると、学校の校内で走ったら駄目だよということに気づけば、中学生はすぐに動いていただろうと思いますが、今回はどのようなルートで何を確認しないといけないのかというルートすら一切教えていません。その分、試行錯誤をしながら今回の鬼ごっこになったのです。だから、ただの鬼ごっこではなくて、そこに至るまでにいろいろな出来事や事件があって、そこに導く関わり方も無限大に選択肢があったわけです。そういったものを、各中学校に、どこが主体で、どこがつくっていくのか、そういったところも私にはまだ見えていません。この一事例をもとに検討していく必要があります。少なからず主体性が重要だとなると、つつい教員としてしゃべりすぎてしまいそうな、あるいは大人がつくる枠組みという不安があり、主体性と枠組みと言うジレンマになるかと思えます。それで、今回のケースは大学生と言うこともあり、かなり自由に、そして中学生が自分たちで枠組みを決めて活動したというような事例になります。

【座長】

ありがとうございます。それでは、予定した時間が迫ってきておりますが、全体を通してお気づきや感想でも構いませんので、何かありましたらお願いいたします。

【委員】

学生さんのお話を聞きながら、完全にフリーにするのは大変だというお話だったというように思うのですが、私は名和高司さんの『パーパス経営』という本がすごく好きで、パーパスを掲げて、それに向けてやっていこうというもので、そのキーワードが3つありまして、1つが「ワクワク」、子どもたちはすごくワクワクしながら取り組んでいたと思います。次は「ならでは」、中学生ならではの発想がこの「鬼ごっこ」だったと思います。おそらく大人ではこの発想は出てこないと思います。そして最後のキーワードが「できる」、中学生だからできるもの、この場所でできるもの、それが大人の最後に制御できる領域だと思います。だから、「ワクワク」「ならでは」「できる」という3要素、特に「できる」のところ最後に枠組みとして活動を絞られたら、パーパス経営の実践につながるのではないかということ、名和高司さんは言われています。参考までに紹介いたしました。

【座長】

ありがとうございました。それでは時間が迫ってきております。特に第3部会につきましては、子どもさんたちの姿や、学生さんたちの姿がリアルに確認できたということで、議論がさらに深まったのかなという風に思えます。このコミクラについては、周南市が部

活動改革で掲げている「やってみたい」を形にすることに実は一番近づくというか、本質的なところなのではないかと思ひ、可能性を感じているところです。子どもさんたちの成長を見守る大人の側の価値観のチェンジみたいなものも、実は大きな課題になってくるのかなということもお話を聞きながら感じたところです。いろいろとご意見をいただき、ありがとうございました。

話題に出てきたことにつきましては、事務局担当はもちろんですが、この場にご参会いただきました皆様におかれましても、それぞれの団体に持ち帰って、ご検討につなげていただけたらと言う風に思っております。

以上で本日の議題が終了ということになります。参加の皆様、長時間にわたり熱心なご協議をありがとうございました。本日いただきましたご意見をもとに、今後さらにそれぞれの専門部会の方で検討を進めていきたいという風に考えております。それでは、今後の日程について事務局よりお願いいたします。

【事務局】

第10回推進協議会につきましては、2月を予定しております。今後、各専門部会を適宜開催し、推進協議会にてご報告させていただけたらと考えております。専門部会、第10回推進協議会の開催期日が決まり次第、ご連絡をさせていただきます。

【座長】

今ありましたように、第10回推進協議会等につきましては、日程が決まり次第、ご連絡をさせていただきますので、お待ちいただけたらと思ひます。それでは、進行を事務局にお返しします。ありがとうございました。

【事務局】

それでは閉会行事に入ります。本日は、大変お忙しい中、本協議会にご出席いただき、たくさんの貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。以上を持ちまして、令和6年度第9回周南市文化・スポーツ活動推進協議会を終了いたします。お帰りの際は交通安全に十分気をつけられますようお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。